

第3章 資格の費用対効果

1. はじめに

資格を取得する過程においては様々なコストが発生する。資格のほとんどがその認定・授与において、国家や自治体あるいは民間の業界団体が独自に行う試験への合格や、学校等において所定の学習成果を収めた事実の証明を求める。そのため、資格の取得をめざす人々は、学習と受験のための時間と金銭を捻出する必要がある。また、家族や職場の人々の理解を得るために精神的な労苦を伴うこともあろう。中でも時間的資源は全ての人にとって1日24時間に限られており、その捻出には必ず限界がある。一方、資格の取得によってえられるメリットにも様々なものがある。学校への進学や入職・独立開業に必須またはそれらを有利にする資格もあれば、日々の仕事を進める上で役に立つ資格もあるだろう。また、自らの知識・技能が一定水準以上のものであることを客観的に認めてもらえる、あるいは資格取得のための学習活動そのものが楽しいといった、精神的な満足の獲得というメリットも考えられる。人々は、自らが捻出できるコストと得られるメリットとを天秤にかけて、取得を目指すか否か意思決定を行う。したがって、資格の費用対効果の情報は、これから資格を取得しようと考えている人々にとって大変重要なものである。

そこで本章では、「Web 免許資格調査」データにより資格取得にかかるコストとメリットの両面から分類し、費用対効果の高い（取得しやすく効果が高い）資格を明らかにし、さらにそれらの資格を取得している人々のプロフィールを描く。まず第2節において、取得にかかるコストが特に高い資格と低い資格、および中ぐらいの資格を抽出し、それらの取得者のプロフィールを描く。次に第3節において、費用対効果が高い資格を資格取得によるメリットの種類ごとに抽出し、その取得者のプロフィールを描く。最後に第4節において、費用対効果が中程度の資格を資格取得によるメリットの種類ごとに抽出し、その取得者のプロフィールを描く。なお本章においては、資格にかかるコストとしては「取得に要した期間」に、資格取得によるメリットとしては「入職時の必要度（必須か、有利になるか）」と「職務遂行上の有効度（非常に役立つ）」に着目する。「取得に要した期間」は2009年調査でのみ尋ねている質問項目であるため、本章においては原則として2009年データのみを使用する。

2. 取得に要する期間別にみた資格

(1) 分析の目的と方法

本節では、取得にかかるコストが特に高い資格と低い資格・および中ぐらいの資格を抽出し、それらの取得者のプロフィールを描く。分析方法は以下のとおりである。

ア 「100名以上取得資格」の抽出

本報告ではごく一部の人だけが取得するような特異な資格ではなく、多くの人々が取得す

る代表的な資格を分析対象としたい。また、資格ごとの特徴を統計的手法により明らかにするためには、ある程度のサンプル数が必要となる。そこで本章では、本調査で収集された 1034 資格のうち、2008 年調査と 2009 年調査の取得者数が合計 100 名以上である 147 資格（以下「100 名以上取得資格」と呼ぶ）を分析対象とする（図表 3-2-2）。前節において、本章では原則として 2009 年調査のデータのみを用いると述べたが、この「100 名以上取得資格」の抽出においては 2008 年と 2009 年の合算データを用いる。その理由は、片方の年の調査データのみを使用すると、一方の年において偶然多く（少なく）回答された資格が分析対象に入って（から外れて）しまうためである。

イ 取得難易度指数の算出

すべての「100 名以上取得資格」について、「取得に要した期間」の分布をもとに取得難易度指数を算出した。算出方法は以下のとおりである。2009 年調査では、資格の取得に要した期間を「1 週間未満」から「5 年以上」までの 9 段階で尋ねている。各段階の最小値を日数単位に換算（「1 週間未満」→1 日、「1 週間以上 1 ヶ月未満」→7 日、「1 ヶ月以上半年未満」→30.4 日（ $365 \div 12$ ）「半年以上 1 年未満」→182.5 日（ $365 \div 2$ ）、「1 年以上 2 年未満」→365 日、「2 年以上 3 年未満」→730 日、「3 年以上 4 年未満」→1095 日、「4 年以上 5 年未満」→1460 日、「5 年以上」→1825 日）し、それらの日数に各段階を回答した人の割合を乗じたものを合算した（例を図表 3-2-1 に示した）。

図表 3-2-1 取得難易度指数算出例（小学校教諭免許取得者の場合）

取得準備期間 (日数換算後)	1週間未満 (1)	1週間～ (7)	1ヶ月～ (30.4)	半年～ (182.5)	1年～ (365)	2年～ (730)	3年～ (1095)	4年～ (1460)	5年～ (1825)	計
該当者数	0	0	1	9	23	15	84	83	11	226
%	0.0	0.0	0.4	4.0	10.2	6.6	37.2	36.7	4.9	100.0

取得難易度指数=1125=1*0%+7*0%+30.4*0.4%+182.5*4%+365*10.2%+730*6.6%+1095*37.2%+1460*36.7%+1825*4.9%

ウ 「難関資格（期間）」「簡易資格（期間）」「中堅資格（期間）」の抽出

147 の「100 名以上取得資格」のうち、取得難易度指数の大きい方から 20 番目まで（難易度指数 1681～884）の資格を「難関資格（期間）」、小さい方から 20 番目まで（難易度指数 13～46）の資格を「簡易資格（期間）」と名付けた。さらに、取得難易度指数が「難関資格（期間）」と「簡易資格（期間）」のほぼ中間に位置する 22 個の資格を「中堅資格（期間）」と名付けた。「中堅資格（期間）」の設定は、職業訓練校での一般的な訓練期間（半年から一年）に準拠して行った。したがって、取得難易度指数は 183～365 となる。これら三種類の資格について「取得者数」のほか、全取得者の「女性比率」「平均年齢」、最も多くの取得者が回答した「最終学歴」「取得時期」「入職必要度（「必須」及び「有利）」」「職務上の有効度（「非常に役立つ）」」「取得準備期間」の割合（%）を図表 3-2-3（「難関資格（期間）」）、図表

3-2-5（「簡易資格（期間）」）、図表 3-2-6（「中堅資格（期間）」）に示した。なお、これらはすべて 2009 年調査のデータから算出している。

(2) 分析結果

ア 「100 名以上取得資格」の分布

図表 3-2-2 に、抽出された 147 の「100 名以上取得資格」を種類別に分類して示した。全ての資格について取得者数と取得難易度指数を示すとともに、「難関資格（期間）」に分類された資格を強調で、「簡易資格（期間）」に分類された資格を網掛で、「中堅資格（期間）」に分類された資格を斜体字で示した。一覧すると「難関資格（期間）」は「医療・健康管理」および「教育・学習支援」といった専門職の分野に偏っており、「簡易資格（期間）」は「車両・船舶運転」「定置機関・建設機械運転」「設備管理」「化学物質管理」「危険作業」「溶接・圧接」といったブルーカラー職の分野と、「OA 機器・ソフトウェア運用」の分野に偏っていることが見て取れる。また、「中堅資格（期間）」は、「情報処理」「経理・会計管理」「建設事務・管理」「語学」といったホワイトカラー職の分野に集中している。

図表 3-2-2 「100名以上取得資格」の分類

種類別分類				種類別分類										
大分類	小分類	資格名	取得者数		大分類	小分類	資格名	取得者数						
			2009年	2008年 +2009年				2009年	2008年 +2009年					
医療・福祉	アート	カラーコーディネーター	100	204	教養	語学	実用英語検定準1級	88	180					
		色彩能力検定	127	259			101	実用英語検定2級	376	694				
	医師	268	511	1671			TOEIC730点～	277	540					
	歯科医師	62	121	1663			TOEIC600点～	128	262					
	医療・健康管理	獣医師	73	128		1681	TOEIC470点～	56	119					
		薬剤師	164	337		1071	建設	一般教養	日本漢字能力検定(漢検)2級	330	677			
		保健師	49	104		1153		建築士(1級)	102	190				
		看護師	184	359		1090		建築士(2級)	132	250				
		診療放射線技師	65	119		992		インテリアコーディネーター	62	116				
		臨床検査技師	116	233		1042		建築施工管理技士1級	78	149				
		理学療法士	74	130		1160		建築施工管理技士2級	67	126				
		歯科技工士	55	102		623		土木施工管理技士1級	312	634				
		歯科衛生士	60	113		539		土木施工管理技士2級	106	212				
		あんま・マッサージ	62	124		884		測量士	109	239				
		はり師	93	181		963		測量士補	152	318				
		きゆう師	83	168		974	放送・通信	電気工事士(第1種)	165	258				
		柔道整復師	54	108		891		電気工事士(第2種)	335	640				
		福祉・介護	管理栄養士	64		131	1012	建設作業	足場組立て作業主任者	84	144			
			栄養士	109		213	655	社会教育	司書	118	234			
			衛生管理者(第1種)	257		450	128	学芸員	129	244				
			衛生管理者(第2種)	58		109	125	不動産管理・運営	宅地建物取引主任者	334	656			
			臨床心理士	52		108	1182		秘書	秘書技能検定2級	297	297		
	社会福祉士		98	211		783	秘書技能検定3級	103	103					
	社会福祉主事(任用資格)		147	149		804	専門事務	行政書士	99	212				
	介護福祉士		153	277		525		医療保険請求事務技能検定(医科/歯科)	28	102				
	保育士		146	286		623	損害保険代理店資格	124	125					
	訪問介護員(ホームヘルパー)2級		276	508		84	損害保険募集人資格	145	153					
	介護支援専門員(ケアマネージャー)	143	302	444		生命保険募集人資格	120	121						
	福祉住環境コーディネーター	110	226	89		珠算能力検定(1級)	94	194						
	動力車操縦者(鉄道)	95	151	295		珠算能力検定(2級)	165	346						
	運転	車両・船舶運転	大型自動車免許(一種)	542		875	30	事務	経理・会計管理	珠算能力検定(3級)	178	345		
			大型自動車免許(二種)	184		303	76			簿記検定(日商1級)	103	220		
			中型自動車免許(一種)	352		433	47			簿記検定(日商2級)	480	951		
			普通自動車免許(一種)	4265		5912	54			簿記検定(日商3級)	430	816		
			普通自動車免許(二種)	243		357	62			簿記能力検定(全経1級)	42	105		
普通自動車免許(AT)			533	717	66	簿記能力検定(全経2級)	67			141				
大型特殊自動車(一種)			177	295	25	簿記実務検定(全商1級)	51			145				
自動二輪車免許			875	1272	32	簿記実務検定(全商2級)	93			194				
原動機付自転車免許			127	189	13	簿記実務検定(全商3級)	73			131				
牽引免許(一種)			90	159	20	建設業経理事務士	63			137				
定置機関・建設機械		フォークリフト技能者	761	1285	20	OA機器・ソフトウェア	運用	日本語ワープロ検定2級	81	201				
		高所作業車運転技能者	104	158	62			日本語ワープロ検定3級	109	228				
		小型船舶操縦士(1級)	51	135	70			MOUSエクセル上級	64	140				
		小型船舶操縦士(2級)	57	140	57			MOUSエクセル一般	81	175				
		小型船舶操縦士(4級)	68	114	18			MOUSワード上級	54	118				
		ボイラー技士(1級)	65	122	177			MOUSワード一般	62	135				
		ボイラー技士(2級)	196	378	79			シスアド初級(AD)	398	813				
		クレーン・デリック運転士(クレーン運転士を含む)	198	347	49			情報処理	ソフトウェア開発技術者(SW)	53	129			
		移動式クレーン運転士	89	161	66				基本情報技術者(FE)	107	284			
		小型移動式クレーン	120	198	24				第一種情報処理技術者	129	142			
床上操作式クレーン		125	199	19	第二種情報処理技術者	254	260							
車両系工事機器運転		玉掛技能者	495	872	35	情報・通信	無線通信	情報処理検定(2級)	54	132				
		車両系整地掘削用運転	83	160	51			情報処理検定(3級)	47	107				
		電気主任技術者3種	157	288	493			航空無線通信士	75	128				
		電気工事施工管理技士1級	96	172	282			陸上特殊無線技士1級	66	123				
		電気工事施工管理技士2級	58	116	140			陸上特殊無線技士2級	49	108				
		高圧ガス製造保安責任者(化学)	95	163	135			陸上特殊無線技士3級	70	113				
		高圧ガス製造保安責任者(機械)	74	131	232			食品調理・管理	食品調理・管理	調理師	448	889		
		公害防止管理者	155	298	176					溶接技能者	43	134		
		管理	エネルギー・環境	エックス線作業主任者	63			124	67	製造	溶接・圧接	ガス溶接技能者	297	474
				毒物劇物取扱責任者	115			231	288			アーク溶接	232	243
設備管理			消防設備士(乙種)	58	131	54	設置・整備	車両・鉄道・航空機整備	自動車整備士(2級ガソリン)	114	205			
			防火管理者(甲種)	165	166	40			ファイナンシャルプランナー(AFP)	86	168			
化学物質管理			有機溶剤作業主任者	248	430	41	相談・支援	経営管理支援	ファイナンシャルプランニング技能士(2級)	88	177			
			特定化学物質等主任者	182	332	49			社会保険労務士	62	118			
	危険物取扱者(甲種)		297	511	167	対人サービス	商取引	証券外務員	174	328				
	危険物取扱者(乙種)		830	1502	70			販売士2級	100	111				
危険物取扱者(丙種)	149		245	46	販売士3級	110	112							
危険作業	危険作業		潜水士	50	107	67	対人サービス	美容師	理容師	57	114			
		酸欠危険作業主任2種	82	154	64	美容師			124	230				
教育訓練・指導	教育・学習支援	幼稚園教諭免許	177	337	694	農林水産	農林水産	食品衛生管理者	65	188				
		小学校教諭免許	228	422	1125			食品衛生責任者	128	138				
		中学校教諭免許	632	1135	1068			「100名以上取得資格」取得者全体						
		高等学校教諭免許	767	1396	1123			28103	48386	277				
		養護学校教諭免許	52	107	1055									

(注)「難関資格(期間)」を強調、「簡易資格(期間)」を網掛、「中堅資格(期間)」を斜体字で示した。

イ 「難関資格（期間）」取得者のプロフィール

まず、「難関資格（期間）」についてみてみよう。まず資格の種類を分類すると、20 資格のうち最も多いものは医療・健康管理の分野における 15 資格である（獣医師、医師、歯科医師、臨床心理士、理学療法士、保健師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、診療放射線技師、きゅう師、管理栄養士、はり師、柔道整復師、あんま・マッサージ）。次に多いものは教育・学習支援の分野における 4 資格である（小学校教諭免許、高等学校教諭免許、中学校教諭免許、養護学校教諭免許）。最後の 1 資格は社会教育の分野における「学芸員」である。

図表 3-2-3 「難関資格（期間）」（取得に時間のかかる資格）20 資格

順位	資格名	取得者数		女性比率(%)	最頻最終学歴(%)	平均年齢(標準偏差)	最頻取得時期(%)	入職必要度(%)		職務上の有効度(%)	最頻取得準備期間(%)
		2009	(2008+2009)					必須	有利		
1	獣医師	73	(128)	31.5	大学理系(60.3)	41.8 (12.2)	20代(93.2)	65.8	28.8	65.8	5年～(79.5)
2	医師	268	(511)	20.5	大学理系(61.2)	40.6 (8.1)	20代(94.4)	88.1	10.1	89.6	5年～(86.9)
3	歯科医師	62	(121)	19.4	大学理系(66.1)	42.9 (8.6)	20代(90.3)	87.1	11.3	90.3	5年～(90.3)
4	臨床心理士	52	(108)	55.8	大学院(80.8)	37.3 (7.8)	20代(61.5)	48.1	40.4	53.8	5年～(34.6)
5	理学療法士	74	(130)	20.3	専修・専門(43.2)	34.3 (6.4)	20代(79.7)	86.5	9.5	81.1	3年～4年未満(52.7)
6	保健師	49	(104)	95.9	大学理系(36.7)	34.2 (8.2)	20代(89.8)	67.3	18.4	61.2	4年～5年未満(44.9)
7	小学校教諭免許	228	(422)	55.7	大学文系(69.3)	40.6 (8.5)	20代(93.4)	44.7	27.4	40.3	4年～5年未満(36.7)
8	高等学校教諭免許	767	(1396)	42.2	大学文系(47.7)	40.1 (9.0)	20代(96.1)	22.4	24.5	21.9	3年～4年未満(47.8)
9	看護師	184	(359)	90.2	専修・専門(59.2)	35.9 (7.0)	20代(89.1)	78.3	13.6	83.2	3年～4年未満(54.3)
10	薬剤師	164	(337)	34.8	大学理系(51.8)	37.7 (8.1)	20代(95.1)	37.8	38.4	37.8	4年～5年未満(47.0)
11	中学校教諭免許	632	(1135)	51.4	大学文系(49.5)	40.2 (8.6)	20代(95.1)	22.0	27.7	19.7	3年～4年未満(43.5)
12	養護学校教諭免許	52	(107)	51.9	大学文系(75.0)	42.1 (9.1)	20代(66.0)	32.0	38.0	42.0	3年～4年未満(38.0)
13	臨床検査技師	116	(233)	65.5	専修・専門(31.9)	39.8 (9.2)	20代(95.7)	62.9	25.0	60.3	3年～4年未満(55.2)
14	管理栄養士	64	(131)	85.9	大学理系(42.2)	35.1 (7.3)	20代(87.5)	34.4	42.2	46.9	4年～5年未満(45.3)
15	診療放射線技師	65	(119)	20.0	専修・専門(44.6)	38.8 (7.9)	20代(90.8)	86.2	9.2	86.2	3年～4年未満(50.8)
16	きゅう師	83	(168)	18.1	専修・専門(45.8)	40.6 (7.9)	20代(67.1)	72.2	24.1	74.7	3年～4年未満(68.4)
17	はり師	93	(181)	19.4	専修・専門(45.2)	40.1 (7.9)	20代(65.2)	70.7	21.7	79.3	3年～4年未満(64.1)
18	学芸員	129	(244)	51.2	大学文系(48.1)	37.0 (7.6)	20代(93.8)	20.2	24.8	20.2	3年～4年未満(37.2)
19	柔道整復師	54	(108)	7.4	専修・専門(51.9)	39.9 (8.5)	20代(72.2)	79.6	14.8	79.6	3年～4年未満(42.6)
20	あんま・マッサージ	62	(124)	21.0	専修・専門(45.2)	40.5 (7.8)	20代(65.0)	75.0	23.3	80.0	3年～4年未満(53.3)
「100名以上取得資格」 取得者全体		28103	(48386)	30.6	高校(25.7)	38.7 (8.5)	20代(53.6)	23.3	28.5	26.5	1ヶ月～半年未満 (34.7)

(注)ゴシックは、「100名以上取得資格」取得者全体の平均値より高いもの及び最頻最終学歴が大学文系であるもの

次に取得にかかった期間をみると、最も高い割合を占めた期間が「3年以上4年未満」である資格が 12 資格（学芸員、養護学校教諭免許、中学校教諭免許、高等学校教諭免許、診療放射線技師、理学療法士、臨床検査技師、はり師、きゅう師、あんま・マッサージ、柔道整復師、看護師）、「4年以上5年未満」である資格が 4 資格（小学校教諭免許、保健師、管理栄養士、薬剤師）、「5年以上」である資格が 4 資格（医師、獣医師、歯科医師、臨床心理士）と、いずれもかなり長期の年月を必要としている。医療や教育に関する資格は、それを取得するために高等教育（「専修・専門学校」を含む）を修了していることが前提とされている場合が多い。本調査では「取得にかかった期間」に必要な学歴を取得するための期間も含むため、取得の準備に3年以上を要する資格ばかりが含まれたのだと考えられる。よって取得者の最終学歴も高等教育が多い。

また多くの場合、医療・教育分野の職業に就くためには、その職業についての資格を取得していることが必須とされている。そのため、「難関資格（期間）」の取得者は「入職必要度」

と「職務上の有効度」がともに大変高い。ただしその傾向は医療・健康管理分野の資格において顕著であり、教育・学習支援の分野や社会教育の分野の資格においてはそれほどでもない。特に「高等学校教諭免許」「中学校教諭免許」「学芸員」については「入職に必須」または「有利」と答えた人の割合が他の「難関資格（期間）」に比べて著しく小さい。その背景には、これらの資格を取得しても実際にはその資格を活用できる職業に就く人が少ないことがあげられる。実際に2009年のデータを用いて、各「難関資格（期間）」取得者のうち、現職においてその資格と同じ名称の職業や関連職業に就いている人の割合を算出すると、図表3-2-4のようになる。「高等学校教諭免許」「中学校教諭免許」「学芸員」は、資格を取得していても資格と同一名称の職業や関連職業に就く人がきわめて少ない「死蔵率」の高い資格であるといえる。これは先行研究（阿形 1998）と一致する結果である。なお、これらの「死蔵率」の高い資格はいずれも最終学歴が「大学文系」である人が最も多い資格でもある。

図表 3-2-4 難関資格（期間）取得者の従事する当該資格関連職業

分類	資格名	同名の職業従事者	関連職業従事者	計
医療・健康管理	獣医師	獣医師	61.6% 畜産学研究者(4.1%)、畜産技術者(6.8%)、動物学者(1.4%)	73.9%
	医師	医師(「外科医」17.2%「産婦人科医」16.4%「小児科医」16.4%「精神科医」16.4%「内科医」18.3%)	84.7% 医学研究者(6.3%)、病理学研究者(3.7%)	94.7%
	歯科医師	歯科医師	82.3% 医学研究者(6.5%)、歯科衛生士(1.6)、歯科技工士(1.6)	92.0%
	臨床心理士	なし	0.0% キャリアカウンセラー(1.9%)、学校カウンセラー(25.0%)、教育カウンセラー(1.9%)、産業カウンセラー(11.5%)、児童相談員(11.5%)、心理学研究者(26.9%)、精神科医(3.8%)	82.5%
	理学療法士	理学療法士	58.1% 義肢装具士(9.5%)、言語聴覚士(4.1%)、作業療法士(10.8%)、福祉用具専門相談員(2.7%)	85.2%
	保健師	保健師	67.3% 看護師(4.1%)、助産師(16.3%)	87.7%
	看護師	看護師	24.5% 保健師(22.3%)、助産師(22.3%)	69.1%
	薬剤師	薬剤師	28.0% 薬学研究者(21.3%)、医薬品製造員(8.5%)、医薬情報担当者(4.9%)	62.7%
	臨床検査技師	臨床検査技師	34.5% 臨床工学技士(10.3%)、診療情報管理士(0.9%)、細胞検査士(25.9%)、医薬品製造員(1.7%)	73.3%
	管理栄養士	栄養士	53.1% ソムリエ(1.6%)、フードコーディネーター(1.6%)、保健師(1.6%)、洋菓子職人(1.6%)、料理研究家(1.6%)、和菓子職人(1.6%)	62.7%
	診療放射線技師	診療放射線技師	69.2% 放射線利用機器技術者(13.8%)、臨床検査技師(1.5%)、臨床工学技士(4.6%)	89.1%
	きゅう師	はり師・きゅう師	50.6% あんまマッサージ指圧師(25.3%)、柔道整復師(13.3%)、カイロプラクター(2.4%)	91.6%
	はり師	はり師・きゅう師	45.2% あんまマッサージ指圧師(23.7%)、柔道整復師(15.1%)、カイロプラクター(4.3%)	88.3%
	柔道整復師	柔道整復師	83.3% あんまマッサージ指圧師(5.6%)、はり師・きゅう師(3.7%)、カイロプラクター(5.6%)	98.2%
	あんまマッサージ	あんまマッサージ指圧師	48.4% はり師・きゅう師(21.0%)、柔道整復師(9.7%)、カイロプラクター(8.1%)	87.2%
教育・学習支援	小学校教諭	小学校教員	19.7% 中学校教員(4.8%)、高等学校教員(2.2%)、盲・ろう・養護学校教員(8.8%)、幼稚園教員(3.5%)	39.0%
	高等学校教諭	高等学校教員	5.1% 小学校教員(3.0%)、中学校教員(4.8%)、盲・ろう・養護学校教員(2.1%)、幼稚園教員(0.3%)	15.3%
	中学校教諭	中学校教員	7.5% 小学校教員(4.9%)、高等学校教員(3.5%)、盲・ろう・養護学校教員(2.8%)、幼稚園教員(0.6%)	19.3%
	養護学校教諭	盲・ろう・養護学校教員	38.5% 小学校教員(7.7%)、中学校教員(1.9%)、高等学校教員(1.9%)、幼稚園教員(0.0%)	50.0%
社会教育	学芸員	学芸員	20.2% 画家(3.1%)、彫刻家(2.3%)、陶芸家(1.6%)、美術品補修員(1.6%)、舞台照明家(0.8%)	29.6%

最後に、「難関資格（期間）」の特徴として女性比率が高いことがあげられる。「100名以上取得資格」取得者全体の女性比率が30.6%であるのに対し、「難関資格（期間）」では約半数が女性比率50%を超える。中でも、教育関連資格とコメディカル関連資格では際立って女性比率が高い。

ウ 「簡易資格（期間）」取得者のプロフィール

次に「簡易資格（期間）」についてみてみよう。まず資格の種類を分類すると、20資格のうち最も多いものは、車両・船舶運転に関する7資格（原動機付自転車免許、小型船舶操縦士（4級）、牽引免許（一種）、フォークリフト技能者、大型特殊自動車（一種）、大型自動車免許（一種）、自動二輪車免許）である。次に多いものは、定置機関・建設機械運転に関する3資格（床上操作式クレーン、小型移動式クレーン、玉掛技能者）である。3番目に多いものは、化学物質管理に関する2資格（有機溶剤作業主任者、危険物取扱者（丙種））、無線通信に関する2資格（陸上特殊無線技士3級、陸上特殊無線技士2級）、OA機器・ソフトウェア運用に関する2資格（MOUSワード上級、MOUSワード一般）、専門事務に関する2資格（損害保険募集人資格、生命保険募集人資格）。最も少ないものは設備管理に関する資格（防火管理者（甲種））、溶接・圧接に関する資格（ガス溶接技能者）である。

図表 3-2-5 「簡易資格（期間）」（取得に比較的時間がかからない資格）20資格

順位	資格名	取得者数		女性比率(%)	最頻最終学歴(%)	平均年齢(標準偏差)	最頻取得時期(%)	入職必要度(%)		職務上の有効度(%)	最頻取得準備期間(%)
		2009	(2008+2009)					必須	有利		
147	原動機付自転車免許	127	(189)	30.7	高校(40.9)	38.3 (7.1)	~19歳(78.7)	4.7	7.9	9.4	1週間未満(53.5)
146	陸上特殊無線技士3級	70	(113)	2.9	高校(52.9)	41.7 (9.6)	20代(49.3)	30.4	21.7	20.3	1週間未満(49.3)
145	小型船舶操縦士(4級)	68	(114)	13.2	高校(30.9)	42.6 (6.6)	20代(72.1)	1.5	8.8	1.5	1週間~1ヶ月未満(52.9)
144	損害保険募集人資格	145	(153)	46.9	大学文系(44.8)	38.1 (8.9)	20代(56.3)	47.2	18.8	30.6	1週間~1ヶ月未満(54.9)
143	床上操作式クレーン	125	(199)	0.8	高校(52.8)	39.4 (8.0)	20代(50.8)	35.5	25.8	41.9	1週間未満(58.9)
142	牽引免許(一種)	90	(159)	3.3	高校(53.3)	39.0 (7.4)	20代(60.0)	17.8	30.0	20.0	1週間~1ヶ月未満(65.6)
141	フォークリフト技能者	761	(1285)	3.4	高校(51.6)	39.0 (7.7)	20代(55.7)	30.4	35.9	41.6	1週間未満(42.3)
140	小型移動式クレーン	120	(198)	4.2	高校(55.0)	39.3 (7.8)	20代(52.5)	22.0	40.7	31.4	1週間未満(55.9)
139	大型特殊自動車(一種)	177	(295)	4.0	高校(51.4)	40.3 (8.4)	20代(57.1)	23.2	26.6	24.3	1週間~1ヶ月未満(42.4)
138	大型自動車免許(一種)	542	(875)	5.7	高校(46.5)	40.4 (8.1)	20代(65.9)	21.4	31.7	30.6	1ヶ月~半年未満(54.4)
137	自動二輪車免許	875	(1272)	14.5	高校(31.4)	39.3 (7.8)	20代(44.3)	6.8	9.6	9.0	1ヶ月~半年未満(48.6)
136	陸上特殊無線技士2級	49	(108)	0.0	高校(51.0)	37.7 (9.4)	20代(66.7)	27.1	20.8	33.3	1週間未満(35.4)
135	生命保険募集人資格	120	(121)	43.3	大学文系(50.8)	39.0 (9.3)	20代(40.8)	65.0	14.2	37.5	1週間~1ヶ月未満(55.8)
134	玉掛技能者	495	(872)	1.8	高校(51.5)	39.4 (7.7)	20代(53.1)	34.1	31.8	35.3	1週間未満(59.6)
133	MOUSワード上級	54	(118)	74.1	大学文系(33.3)	34.2 (7.3)	20代(61.1)	5.6	51.9	22.2	1ヶ月~半年未満(50.0)
132	防火管理者(甲種)	165	(166)	8.5	大学文系(40.0)	45.7 (9.1)	20代(38.8)	25.5	26.7	17.6	1週間未満(63.6)
131	有機溶剤作業主任者	248	(430)	5.2	高校(41.5)	39.9 (7.7)	20代(59.3)	21.5	37.8	16.7	1週間未満(61.4)
130	ガス溶接技能者	297	(474)	3.0	高校(55.9)	38.3 (8.9)	~19歳(49.8)	11.7	34.4	14.4	1週間未満(45.0)
129	MOUSワード一般	62	(135)	74.2	大学文系(37.1)	34.7 (7.2)	20代(53.2)	1.6	40.3	17.7	1ヶ月~半年未満(66.1)
128	危険物取扱者(丙種)	149	(245)	10.1	高校(63.8)	38.8 (7.5)	~19歳(68.5)	3.4	16.1	4.7	1ヶ月~半年未満(41.6)
「100名以上取得資格」 取得者全体		28103	(48386)	30.6	高校(25.7)	38.7 (8.5)	20代(53.6)	23.3	28.5	26.5	1ヶ月~半年未満(34.7)

(注) 図表3-2-2に同じ

次に取得にかかった期間をみると、最も高い割合を占めた期間が「1週間未満」である資格が10資格（原動機付自転車免許、陸上特殊無線技士2級、陸上特殊無線技士3級、床上操作式クレーン、フォークリフト技能者、小型移動式クレーン、玉掛技能者、有機溶剤作業主任者、ガス溶接技能者、防火管理者（甲種））、「1週間以上1ヶ月未満」である資格が5

資格（小型船舶操縦士（4級）、大型特殊自動車（一種）、牽引免許（一種）、損害保険募集人資格、生命保険募集人資格）、「1ヶ月以上半年未満」である資格が5資格（大型自動車免許（一種）、自動二輪車免許、MOUSワード上級、MOUSワード一般、危険物取扱者（丙種））と、かなり短期間に取得している。

これらの「簡易資格（期間）」を取得した人々のプロフィールを見ていこう。第一の特徴は、簡易資格（期間）の多くがその取得に大卒の学歴を前提としないため、最終学歴が高卒である人の割合が高い資格が三分の二を占める点である。それゆえ、最も高い割合を占める取得時期が10代である資格が3点ある。取得者の最終学歴で最も多くの割合を占めるものが「大学文系」である資格は、「防火管理者（甲種）」と、専門事務に関する資格である「損害保険募集人資格」「生命保険募集人資格」、OA機器・ソフトウェア運用に関する資格である「MOUSワード上級」「MOUSワード一般」の5資格だけである。これら以外の簡易資格（期間）はすべて「高卒」が最も高い割合を占める。

また、女性比率が低いことも大きな特徴である。「100名以上取得資格」取得者全体の女性比率が30.6%であるのに対し、20の「簡易資格」のうち女性比率が全体より高いものは、「原動機付自転車免許」と、専門事務に関する資格である「損害保険募集人資格」「生命保険募集人資格」、OA機器・ソフトウェア運用に関する資格である「MOUSワード上級」「MOUSワード一般」の5資格だけである。これら5資格以外の資格（車両・船舶運転、定置機関・建設機械運転、化学物質管理、無線通信、設備管理、溶接・圧接に関する資格）には、男性が携わることが多い「ブルーカラー」職において活用される資格が多く含まれる。

なお、「簡易資格（期間）」の「入職必要度」と「職務上の有効度」については、第3節において詳しく述べるためここでは概観を述べるにとどめたい。「難関資格（期間）」と比べると、「簡易資格（期間）」は「入職必要度」も「職務上の有効度」もともに低い。しかし「100名以上取得資格」取得者全体の傾向（「入職必要度（必須）」23.3%、「入職必要度（有利）」28.5%、職務遂行上「非常に役立つ」26.5%）と比べると決して低いものばかりとはいえない。取得に時間がかからなくても、仕事を得る際に有利に働いたり、職務を遂行する上で役に立つ資格が存在することがわかる。この点については、次節で詳しく見ていく。

エ 中堅資格（期間）取得者のプロフィール

最後に、「中堅資格（期間）」についてみてみよう。まず資格の種類を分類すると、22資格のうち最も多いものは経理・会計管理に関する4資格（簿記能力検定（全経1級）、簿記実務検定（全商2級）、簿記能力検定（全経2級）、建設業経理事務士）、および情報処理に関する4資格（基本情報技術者（FE）、ソフトウェア開発技術者（SW）、第一種情報処理技術者、情報処理検定（2級））である。次に多いのは、建設事務・管理に関する3資格（土木施工管理技士2級、インテリアコーディネーター、建築施工管理技士2級）、および語学に関する3資格（TOEIC600点～、実用英語検定準1級、TOEIC470点～）である。

図表 3-2-6 中堅資格（期間）（取得にやや時間がかかる資格）22 資格

順位	資格名	取得者数		女性比率(%)	最頻最終学歴(%)	平均年齢(標準偏差)	最頻取得時期(%)	入職必要度(%)		職務上の有効度(%)	最頻取得準備期間(%)
		2009	(2008+2009)					必須	有利		
48	電気工事士(第1種)	165	258	1.2	高校(55.2)	44.9 (9.8)	20代(48.1)	22.8	50.6	27.8	1週間未満(53.5)
49	土木施工管理技士2級	106	212	8.5	高校(56.6)	41.8 (7.5)	20代(47.2)	22.6	50.0	22.6	1週間未満(49.3)
50	食品衛生管理者	65	188	26.2	高校(27.7)	40.5 (9.9)	20代(55.4)	33.8	36.9	29.2	1週間～1ヶ月未満(52.9)
51	調理師	448	889	31.9	専修・専門(33.0)	39.6 (8.8)	20代(58.2)	20.1	38.7	20.1	1週間～1ヶ月未満(54.9)
52	簿記能力検定(全経1級)	42	105	52.4	専修・専門(45.2)	39.6 (8.7)	～19歳(71.4)	4.8	28.6	19.0	1週間未満(58.9)
53	動力車操縦者(鉄道)	95	151	0.0	高校(69.5)	38.0 (7.3)	20代(77.9)	63.2	14.7	71.6	1週間～1ヶ月未満(65.6)
54	毒物劇物取扱責任者	115	231	14.8	大学理系(28.7)	39.8 (9.2)	20代(52.6)	8.8	34.2	12.3	1週間未満(42.3)
55	電気工事施工管理技士1級	96	172	1.0	大学理系(41.7)	43.6 (8.6)	30代(47.4)	27.4	47.4	34.7	1週間未満(55.9)
56	インテリアコーディネーター	62	116	59.7	大学文系(32.3)	41.1 (7.5)	20代(56.5)	16.1	50.0	21.0	1週間～1ヶ月未満(42.4)
57	TOEIC600点～	128	262	50.0	大学文系(44.5)	34.9 (7.8)	20代(58.6)	1.6	43.0	10.2	1ヶ月～半年未満(54.4)
58	簿記実務検定(全商2級)	93	194	69.9	高校(58.1)	36.1 (7.5)	～19歳(89.2)	0.0	32.3	11.8	1ヶ月～半年未満(48.6)
59	行政書士	99	212	14.1	大学文系(58.6)	40.9 (8.4)	20代(48.5)	23.2	26.3	25.3	1週間未満(35.4)
60	実用英語検定準1級	88	180	65.9	大学文系(51.1)	37.6 (7.0)	20代(60.2)	1.1	55.7	15.9	1週間～1ヶ月未満(55.8)
61	高圧ガス製造保安責任者(機械)	74	131	0.0	高校(47.3)	41.4 (9.0)	20代(67.6)	37.8	36.5	18.9	1週間未満(59.6)
62	TOEIC470点～	56	119	39.3	大学文系(35.7)	35.2 (7.7)	20代(58.9)	7.1	25.0	5.4	1ヶ月～半年未満(50.0)
63	簿記能力検定(全経2級)	67	141	59.7	専修・専門(41.8)	35.6 (7.3)	～19歳(71.6)	6.0	26.9	10.4	1週間未満(63.6)
64	基本情報技術者(FE)	107	284	15.0	大学理系(38.3)	33.0 (6.7)	20代(58.9)	11.2	33.6	10.3	1週間未満(61.4)
65	ソフトウェア開発技術者(SW)	53	129	17.0	大学理系(39.6)	34.1 (5.2)	20代(67.9)	5.7	37.7	13.2	1週間未満(45.0)
66	第一種情報処理技術者	129	142	8.5	大学理系(38.8)	42.4 (6.8)	20代(79.1)	1.6	49.6	8.5	1週間未満(61.4)
67	建設業経理事務士	63	137	55.6	高校(36.5)	39.6 (7.1)	20代(48.4)	9.7	46.8	17.7	1週間未満(45.0)
68	情報処理検定(2級)	54	132	38.9	専修・専門(31.5)	33.7 (7.1)	～19歳(64.2)	3.8	22.6	11.3	1ヶ月～半年未満(66.1)
69	建築施工管理技士2級	67	126	3.0	高校(28.4)	42.2 (8.1)	30代(53.0)	19.7	60.6	30.3	1ヶ月～半年未満(41.6)
	「100名以上取得資格」 取得者全体	28103	(48386)	30.6	高校(25.7)	38.7 (8.5)	20代(53.6)	23.3	28.5	26.5	1ヶ月～半年未満(34.7)

(注)図表3-2-2に同じ

次に取得にかかった期間をみると、最も高い割合を占めた期間が「1週間未満」である資格が12資格（電気工事士（第1種）、土木施工管理技士2級、簿記能力検定（全経1級）、毒物劇物取扱責任者、電気工事施工管理技士1級、行政書士、高圧ガス製造保安責任者（機械）、簿記能力検定（全経2級）、基本情報技術者（FE）、ソフトウェア開発技術者（SW）、第一種情報処理技術者、建設業経理事務士）である。取得難易度指数は「半年から一年」に相当する「中堅資格（期間）」であるが、取得期間の最頻値が「1週間未満」と短いものが過半数を占めている。次に、「1週間以上1ヶ月未満」である資格が5資格（食品衛生管理者、調理師、動力車操縦者（鉄道）、インテリアコーディネーター、実用英語検定準1級）、「1ヶ月以上半年未満」である資格が5資格（TOEIC600点～、簿記実務検定（全商2級）、TOEIC470点～、情報処理検定（2級）、建築施工管理技士2級）となっている。

これらの「中堅資格（期間）」を取得した人のプロフィールをみていこう。第一の特徴は、最終学歴が高卒後に取得する学歴（専修・専門学校、大学文系、大学理系）である人が最も多い資格が14と多いことである。とくに語学に関する3資格（TOEIC600点～、実用英語検定準1級、TOEIC470点～）、情報処理に関する3資格（基本情報技術者（FE）、ソフトウェア開発技術者（SW）、第一種情報処理技術者）は、最終学歴が大学文系もしくは理系である者が多い。

第二の特徴は、女性比率の高さである。100人以上取得資格の平均女性比率は30.6%であるが、それより女性比率が高いのは10資格（調理師、簿記能力検定（全経1級）、インテリアコーディネーター、TOEIC600点～、簿記実務検定（全商2級）、実用英語検定準1

級、TOEIC 470点～、簿記能力検定（全経2級）、建設業経理事務士、情報処理検定（2級）あり半数近くを占める。これら10資格のうち、語学に関する資格と経理・会計管理に関する資格が大半を占めている。

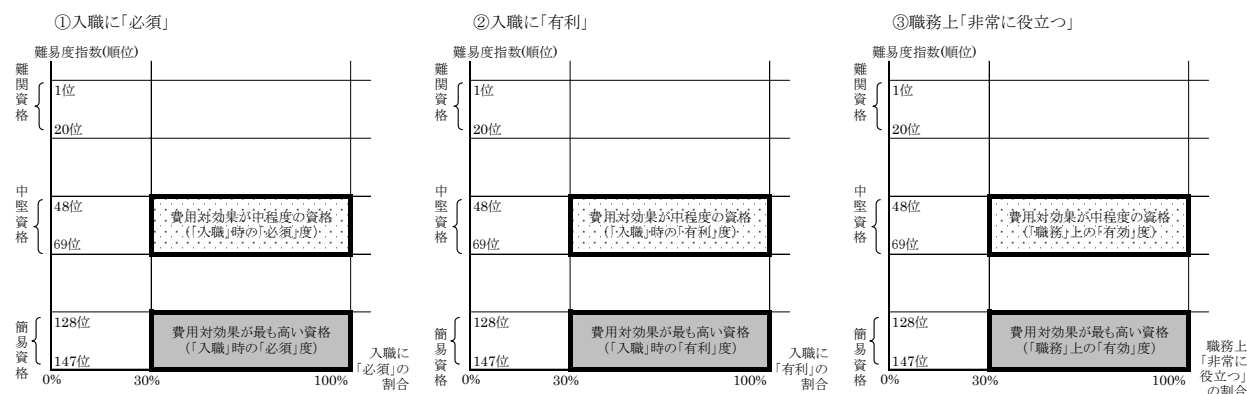
「中堅資格（期間）」の多くは「入職必要度」または「職務上の有効度」で優位を占めていることも特徴である。この点については第4節で検討する。

3. 費用対効果が最も高い資格

(1) 分析の目的と方法

本節では、147の「100名以上取得資格」から費用対効果が高いものを抽出し、その特徴を考察する。資格取得に際しての費用は「取得に要した期間」、資格取得による効果は「入職必要度（必須／有利）」および「職務上の有効度」によって判断する。

図表 3-3-1 「入職必要度」及び「職務上の有効度」からみた「費用対効果の高い資格」の概念図



まず、「効果が高い資格」を抽出する手順は以下のとおりである。「100名以上取得資格」取得者全体の「入職必要度」の平均が、「必須」23.3%、「有利」28.5%、「職務上の有効度（非常に役立つ）」は26.5%である。そこで最も大きい値を示した「有利」の平均値（28.5%）を参照して、「入職必要度」について「必須」および「有利」、「職務上の有効度」について「非常に役立つ」と回答した人の割合が30%以上である資格を「効果の高い資格」とみなした（図表3-3-1の太線で囲まれた部分）。仮に40%以上とすると、抽出される資格がほとんどなくなり、20%以上とするとほぼすべての資格が含まれてしまうことから、この30%というラインは適当と考えられる。

次に、先述の20の「簡易資格（期間）（難易度指数の小さい方から20番目までの資格）」の中で「効果が高い資格」を「費用対効果が最も高い資格」とみなし、それらの資格を取得した人々がどのような属性を持ち、どのような職業で活躍しているのか、プロフィールを明らかにする。さらに、入職時に必要（必須／有利）とされる資格と、職務に就いてから役に

立つ資格とでは何が異なるのか、また同じ入職時に必要な資格であっても「必須」とされる資格と「有利」とされる資格とでは何が異なるのか考察を加える。

(2) 「費用対効果が最も高い資格」取得者のプロフィールと職業

ア 入職時の「必須」度からみた「費用対効果が最も高い資格」

はじめに、比較的短時間で取得でき、かつ入職に「必須」と答えた人が多い資格を紹介する。先述の「簡易資格（期間）」20資格のうち、入職に「必須」と答えた人が取得者の30%以上の資格（「費用対効果が最も高い資格」）は6資格（車両・船舶運転に関する「フォークリフト技能者」、定置機関・建設機械運転に関する「床上操作式クレーン」「玉掛技能者」、無線通信に関する「陸上特殊無線技士2級」、専門事務に関する「損害保険募集人資格」「生命保険募集人資格」）である。

図表 3-3-2 入職時の「必須」度からみた「費用対効果が最も高い資格」取得者のプロフィールと職業

「必須」度順位	資格名	各資格取得者のプロフィール				各資格を入職に「必須」と答えた人が30%以上の職業 (人数の多い順に3位まで)				
		入職に「必須」(%)	取得者数(2009年)	女性比率(%)	平均年齢(標準偏差)					
1	生命保険募集人資格	65.0	120	43.3	39.0 (9.3)	生命保険外務員 (17人 94.1%)	保険代理店主 (11人 81.8%)	保険事務員 (11人 72.7%)	銀行窓口係 (11人 63.6%)	
2	損害保険募集人資格	47.2	145	46.9	38.1 (8.9)	保険事務員 (16人 62.5%)	損害サービス事務員 (11人 72.7%)	銀行支店長 (8人 62.5%)	銀行窓口係 (8人 62.5%)	
3	床上操作式クレーン	35.5	125	0.8	39.4 (8.0)	金型工 (4人 100.0%)	金属精錬技術者(鉄鋼) (4人 50.0%)	圧延工 (3人 66.7%)	鑄造技術者 (3人 66.7%)	産業廃棄物処理技術者 (3人 66.7%)
4	玉掛技能者	34.1	495	1.8	39.4 (7.7)	とび (10人 80.0%)	型枠大工 (9人 66.7%)	鉄骨工 (9人 55.6%)	製鋼工 (9人 44.4%)	
5	陸上特殊無線技士3級	30.4	70	2.9	41.7 (9.6)	鉄道線路設計技術者 (4人 75.0%)	タクシー配車オペレーター (4人 50.0%)	電気通信設備工 (3人 66.7%)		
5	フォークリフト技能者	30.4	761	3.4	39.0 (7.7)	港湾荷役作業員 (18人 61.1%)	倉庫作業員 (16人 37.5%)	積卸作業員 (15人 66.7%)	こん包工 (15人 46.7%)	
	「100名以上取得資格」取得者全体	23.3	28103	30.6	38.7 (8.5)					

(注)ゴシックは、割合については「100名以上取得資格」取得者全体の平均値より高いもの。標準偏差については小さいもの。

各資格を取得している人の属性を図表 3-3-2 の左半分に示した（より詳しいプロフィールは図表 3-2-5 および「主要資格と職業」（第2分冊）を参照）。また、それぞれの資格について、入職に「必須」と答えた人が30%以上である職業を、人数の多い順に第3位まで示した（図表 3-3-2 の右半分）。

専門事務に関する「損害保険募集人資格」「生命保険募集人資格」を除く全ての資格が国家資格である。車両・船舶運転に関する「フォークリフト技能者」、定置機関・建設機械運転に関する「床上操作式クレーン」「玉掛技能者」は、いずれもこれらの資格取得者にしか、当該車両や機械を運転することが許されていない。また、無線通信に関する「陸上特殊無線技士2級」も、特定の職務（警察無線・消防無線・鉄道無線など）に従事する者には取得が義務づけられている資格である。それゆえこれらの資格は当該職務に「入職」する際に「必須」と考える人が多い。

これに対し「損害保険募集人資格」「生命保険募集人資格」は民間資格であるが、これらも保険の販売を仲介する者が取得を義務づけられている資格である。ただし、上記の車両・機械運転免許や無線技士の資格は個人が自由に受験することができるのに対し、「損害保険募集人資格」「生命保険募集人資格」は企業内の訓練システムに組み込まれている場合が多く、「就職」後に取得することが想定されている。既に保険代理店等への「就職」が決まっている、あるいは組織内で新たに保険販売の業務を行うことが決まっている人が、組織内移動としての保険募集職への「入職」時に「必須」とされる資格である。よって、現在無職の人や転職（組織間移動）を希望する人が、新たに保険代理店等へ就職する際に、事前に取得しておく「就職」しやすくなる資格というわけではない。

イ 入職時の「有利」度からみた「費用対効果が最も高い資格」

比較的短時間で取得でき、かつ入職に「有利」な資格を紹介する。先述の簡易資格（期間）20 資格のうち、「入職に有利」と答えた人が取得者の 30%を超えた資格（「費用対効果が最も高い資格」）は 9 資格（車両・船舶運転に関する「牽引免許（一種）」「フォークリフト技能者」「大型自動車免許（一種）」、定置機関・建設機械運転に関する「小型移動式クレーン」「玉掛技能者」、化学物質管理に関する「有機溶剤作業主任者」、OA 機器・ソフトウェア運用に関する「MOUSワード上級」「MOUSワード一般」、溶接・圧接に関する「ガス溶接技能者」）である。各資格を取得している人の属性を図表 3-3-3 の左半分に示した（より詳しいプロフィールは図表 3-2-5 および「主要資格と職業」（第 2 分冊）を参照）。また、それぞれの資格について、入職に「有利」と答えた人が 30%以上である職業を、人数の多い順に第 3 位まで示した（図表 3-3-3 の右半分）。

図表 3-3-3 入職時の「有利」度からみた「費用対効果が最も高い資格」取得者のプロフィールと職業

「有利」 度順位	資格名	各資格取得者のプロフィール				各資格を入職に「有利」と答えた人が30%以上の職業 (人数の多い順に3位まで)						
		入職に 「有利」(%)	取得者数 (2009年)	女性 比率(%)	平均年齢 (標準偏差)							
1	MOUSワード 上級	51.9	54	74.1	34.2 (7.3)	データ入力係 (4人 50.0%)	コンビニ店員 (3人 33.3%)	教育・研修 事務員 (2人 100.0%)	横取・検品 係員 (2人 50.0%)			
2	小型移動式クレーン	40.7	120	4.2	39.3 (7.8)	配管工 (5人 60.0%)	看板制作者 (4人 75.0%)	送電線架線工 (3人 66.7%)	土木施工 管理技術者 (3人 66.7%)			
3	MOUSワード 一般	40.3	62	74.2	34.7 (7.2)	学校事務員 (2人 100.0%)	銀行窓口係 (2人 100.0%)	データ入力係 (2人 50.0%)	結婚式場 スタッフ (2人 50.0%)	広告 デザイナー (2人 50.0%)	受付係 (2人 50.0%)	商品販売 外交員 (2人 50.0%)
4	有機溶剤作業 主任者	37.8	248	5.2	39.9 (7.7)	化学製品 製造オペレーター (13人 46.2%)	石油精製 技術者 (11人 36.4%)	塗料・絵具・ インキ製造工 (10人 50.0%)				
5	フォークリフト 技能者	35.9	761	3.4	39.0 (7.7)	倉庫作業員 (16人 43.8%)	こん包工 (15人 46.7%)	トラック運転者 (15人 46.7%)				
6	ガス溶接技能者	34.4	297	3.0	38.1 (8.1)	製かん工 (13人 69.2%)	溶接工 (8人 37.5%)	金属熱処理工 (7人 71.4%)				
7	玉掛技能者	31.8	495	1.8	39.4 (7.7)	鉄骨工 (9人 33.3%)	化学製品 製造オペレーター (8人 75.0%)	製かん工 (8人 50.0%)	機械組立工 (8人 37.5%)			
8	大型自動車免許 (一種)	31.7	542	5.7	40.4 (8.1)	畑作農業者 (9人 55.6%)	陸上自衛官 (7人 57.1%)	クレーン・巻上機 運転士 (7人 42.9%)				
9	牽引免許(一種)	30.0	90	3.3	39.0 (7.4)	陸上自衛官 (8人 62.5%)	タクシー配車 オペレーター (3人 33.3%)	海上自衛官 (3人 33.3%)	空港旅客係 (3人 33.3%)			
「100名以上取得資格」 取得者全体		28.5	28103	30.6	38.7 (8.5)							

(注) 図表3-3-2に同じ

このうち、「MOUSワード上級」「MOUSワード一般」を除く7つの国家資格は、有資格者にのみ当該業務を遂行する権限が与えられている。したがって、これらの資格を取得した者は、当該業務を行う職場に「入職」する上で有利さを感じる度合いが高いのである。職業の側からみると、重量物を運搬する作業を伴う職業従事者が運転系の資格をもっており、化学製品を扱う職業従事者が「有機溶剤作業主任者」資格をもっているなど、職務内容に資格が直結していることがわかる。これらの資格を持っているのはほとんど男性であることも特徴の1つである。

一方、「MOUSワード上級」「MOUSワード一般」は資格取得者の7割以上が女性であることが顕著な特徴である。従事している職業は事務系の仕事が多いが、「MOUSワード一般」のように多様な職業に分散していることも特徴的である。

ウ 職務上の「有効」度からみた「費用対効果が最も高い資格」

比較的短期間で取得でき、かつ職務上の有効度が高い資格を紹介する。先述の簡易資格(期間)20資格のうち、職務遂行上「非常に役立つ」と答えた人の合計が取得者の30%を超えた資格(「費用対効果が最も高い資格」)は8資格(車両・船舶運転に関する「フォークリフト技能者」「大型自動車免許(一種)」、定置機関・建設機械運転に関する「床上操作式クレーン」「小型移動式クレーン」「玉掛技能者」、無線通信に関する「陸上特殊無線技士2級」、専門事務に関する「損害保険募集人資格」「生命保険募集人資格」)である。各資格を取得している人の属性を図表3-3-4の左半分に示した(より詳しいプロフィールは図表3-2-5および「主要資格と職業」(第2分冊)を参照)。また、それぞれの資格について、職務上「非常に役立つ」と答えた人が30%以上である職業を、人数の多い順に第3位まで示した(図表3-3-4の右半分)。

図表 3-3-4 職務上の「有効」度からみた「費用対効果が最も高い資格」取得者のプロフィールと職業

「有効」度順位	資格名	各資格取得者のプロフィール				各資格を職務遂行上「非常に役立つ」と答えた人が30%以上の職業 (人数の多い順に3位まで)							
		職務上「非常に役立つ」(%)	取得者数	女性比率(%)	平均年齢(標準偏差)								
1	床上操作式クレーン	41.9	125	0.8	39.4 (8.0)	金型工 (4人 100.0%)	金属精錬技術者(鉄鋼) (4人 75.0%)	圧延工 (3人 100.0%)	金属加工・金属製品検査工 (3人 66.7%)	産業廃棄物処理技術者 (3人 66.7%)	鋳造技術者 (3人 33.3%)	製かん工	
2	フォークリフト技能者	41.6	761	3.4	39.0 (7.7)	港湾荷役作業員 (18人 77.8%)	倉庫作業員 (16人 75.0%)	積卸作業員 (15人 80.0%)	こん包工 (15人 60.0%)	トラック運転者 (15人 60.0%)			
3	生命保険募集人資格	37.5	120	43.3	39.0 (9.3)	生命保険外務員 (17人 58.8%)	保険代理店主 (11人 72.7%)	保険事務員 (11人 45.5%)					
4	玉掛技能者	35.3	495	1.8	39.4 (7.7)	とび (10人 80.0%)	型枠大工 (9人 44.4%)	製鋼工 (9人 44.4%)	鉄骨工 (9人 33.3%)				
5	陸上特殊無線技士2級	33.3	49	0.0	37.7 (9.4)	警察官 (8人 75.0%)	消防士 (4人 50.0%)	道路パトロール隊員 (4人 50.0%)					
6	小型移動式クレーン	31.4	120	4.2	39.3 (7.8)	建設作業員 (5人 80.0%)	配管工 (5人 40.0%)	看板制作者 (4人 75.0%)					
7	大型自動車免許(一種)	30.6	542	5.7	40.4 (8.1)	ホテル・旅館支配人 (7人 42.9%)	ハンバーガー店マネージャー (5人 60.0%)	そば・うどん調理人 (3人 66.7%)	スーパー店長 (3人 33.3%)				
8	損害保険募集人資格	30.6	145	46.9	38.1 (8.9)	保険事務員 (16人 56.3%)	損害サービス事務員 (11人 54.5%)	自動車販売員 (7人 42.9%)					
	「100名以上取得資格」取得者全体	26.5	28103	30.6	38.7 (8.5)								

(注)図表3-3-2に同じ

これら8つの資格のうち「生命保険募集人資格」「損害保険募集人資格」を除いた6つの資格は国家資格であり、有資格者にのみ当該業務の遂行が認められている。したがって、「今の仕事を遂行する上で」「非常に役立つ」と答えた人が多いのである。この6つの資格のうち「床上操作式クレーン」「フォークリフト技能者」「玉掛技能者」の3つはア「入職に必須」の項でも出現した資格であり、「小型移動式クレーン」「大型自動車免許（一種）」の2つはイ「入職に有利」の項でも出現した資格である。これら5つの資格は、簡易資格の中では際立ってメリットの大きい資格だといえよう。また、国家資格ではないが「生命保険募集人資格」と「損害保険募集人資格」もア「入職に必須」の項でも出現した資格である。これらの資格が「非常に役立つ」と答える人が多い職業をみると、確かに仕事と資格が直結していることがわかる。

エ 考察

以上、入職時の「必須」度、「有利」度、職務上の「有効」度という三つのメリット別に「費用対効果が最も高い資格」について検討してきた。では、それぞれのメリットの違いはどのように表れるのか比較してみよう。まず、入職時に必要（必須／有利）とされる資格と、職業に就いてから役に立つ（職務上「有効」な）資格とは何が違うのだろうか。先述したように、職務上「有効」な資格のほとんどは入職時に必要（必須／有利）とされる資格と重複している。したがって、資格の種類という点では違いが見られない。では、これらの資格が有効だと考えている人が多い職業からみるとどうだろうか。図表 3-3-2～図表 3-3-4 それぞれの右半分をつきあわせて検討してみると、就いている人の多い職業も共通するところが多い。とはいえ若干の差異が見られる資格も存在する。

「大型自動車免許（一種）」は、入職時に「有利」かつ職務上「有効」な資格であるが、職業は共通したものがない。入職時に「有利」は、「畑作農業者」「陸上自衛官」「クレーン・巻上機運転士」が、職務上「有効」は、「ホテル・旅館支配人」「ハンバーガー店マネージャー」「そば・うどん調理人」「スーパー店長」が主な職業である。確かに前者の方が大型自動車を利用する頻度が多いように思われる。後者は、自ら資格をもっていれば有効だが、必ずしも自分自身が資格を持っていなければならないわけではなさそうである。そうした微妙な差異が一つの特徴である。

「生命保険募集人資格」「損害保険募集人資格」は、入職時に「必須」かつ職務上「有効」な資格であるが、共通する職業がほとんどである。異なるのは、入職時に「必須」にのみ出現する「銀行窓口係」「銀行支店長」である。2001年4月以降、銀行で保険の販売が自由化され始めたことにより、新規事業の拡大を目論んでこれらの保険募集人資格を取得させようとしたことを反映しているのかもしれない。

次に、入職時の「必須」と「有利」の違いを検討しよう。まず、資格数の点で「必須」は6つ、「有利」は9つと「有利」の方が多く抽出されている。両者において、有資格者にのみ

当該業務を遂行する権限が与えられている資格が多いことや運転系の資格が多いことが共通する特徴である。「必須」と「有利」のどちらにも出現するのが「玉掛技能者」「フォークリフト技能者」の2つの資格である。この2つの資格取得者について、「必須」または「有利」と答えた人の比率が高い主な職業をみると共通するものは少ない。「必須」に現れる職業をみると、重量物の取扱・運搬の仕事が多く見られるのに対して、「有利」に現れる職業は必ずしもそうではない。「必須」と「有利」の間にはこのような違いがある。

4. 費用対効果が中程度の資格

本節では、費用対効果が「簡易資格（期間）」ほど高くはないが、やや時間をかけて教育・訓練を受けることによって得た資格（「中堅資格（期間）」）は、入職時もしくは職務遂行上どのように役立つのか検討する。役立つ度合いが「簡易資格（期間）」に比べて高いかどうかを入職時の「必須度」・「有利度」、職務上の「有効度」の平均値を比較して検証する。まず、第3節「費用対効果が最も高い資格」での分析と同様の手順で「効果の高い資格」を抽出しよう。

(1) 入職時の「必須」度からみた「費用対効果が中程度の資格」

はじめに、取得にある程度時間がかかるが、入職に「必須」と答えた人が多い資格を紹介する。先述の「中堅資格（期間）」22資格のうち、入職に必須と答えた人が取得者の30%以上の資格（「費用対効果が中程度の資格」）は、3資格（車両・船舶運転に関する「動力車操縦者（鉄道）」、製造・建設管理に関する「高圧ガス製造保安責任者（機械）」、農林水産に関する「食品衛生管理者」）である。

図表 3-4-1 入職時の「必須」度からみた「費用対効果が中程度の資格」取得者のプロフィールと職業

「必須」度順位	資格名	各資格取得者のプロフィール				各資格を入職に「必須」と答えた人が30%以上の職業 (人数の多い順に3位まで)							
		入職に「必須」(%)	取得者数(2009年)	女性比率(%)	平均年齢(標準偏差)								
1	動力車操縦者(鉄道)	63.2	95	0.0	38.0 (7.3)	電車運転士(45人 77.8%)	鉄道運転計画・運行管理員(17人 58.8%)	駅長(8人 62.5%)	駅務員(8人 37.5%)				
2	高圧ガス製造保安責任者(機械)	37.8	74	0.0	41.4 (9.0)	石油精製技術者(17人 47.1%)	石油精製オペレーター(10人 70.0%)	石けん・洗剤・油脂製品製造オペレーター(3人 100.0%)	航空機技術者(3人 66.7%)	公害防止管理者(3人 33.3%)			
3	食品衛生管理者	33.8	65	26.2	40.5 (9.9)	喫茶店店主(5人 60.0%)	八百屋・魚屋・肉屋店主(4人 50.0%)	バーテンダー(2人 100.0%)	ハム・ソーセージ製造工(2人 100.0%)	おし職人(2人 50.0%)	レストラン支配人(2人 50.0%)	果樹栽培者(2人 50.0%)	洋菓子職人(2人 50.0%)
「100名以上取得資格」取得者全体		23.3	28103	30.6	38.7 (8.5)								

(注) 図表3-3-2に同じ

各資格を取得している人の属性を図表 3-4-1 の左半分に示した（より詳しいプロフィールは図表 3-2-6 および「主要資格と職業」（第2分冊）を参照）。また、それぞれの資格について、入職に「必須」と答えた人が30%以上である職業を、人数の多い順に第3位まで示した

(図表 3-4-1 の右半分)。

これらは全て国家資格であり、有資格者にのみ当該業務を遂行する権限が与えられている資格、もしくは事業所に一定の基準に従って有資格者を置かなければならない資格である。そのため、入職に「必須」と答えた人が多い。「必須」と答えた人の比率が高い主な職業をみると、それぞれ資格と結びつきの強い職業が挙げられている。たとえば「食品衛生管理者」は食品・販売関係の多様な職種が挙げられている。

「入職に必須」と答えた人が多い資格は、「簡易資格(期間)」では 20 の資格のうち 6 つが該当するのに対して「中堅資格(期間)」では 22 のうち 3 つが該当するにすぎない。この 3 つの資格の「必須」度の平均値は、図表 3-4-1 の「入職に「必須」(%)」欄から 44.9%と計算できる。これを図表 3-3-2 から「簡易資格(期間)」について同様に算出した値 40.4%と比べると 4.5 ポイント大きい。

(2) 入職時の「有利」度からみた「費用対効果が中程度の資格」

取得にある程度時間がかかるが、入職に「有利」と答えた人が多い資格を紹介する。先述の「中堅資格(期間)」22 資格のうち、入職に有利と答えた人が取得者の 30%以上の資格(「費用対効果が中程度の資格」)は、16 資格あり「中堅資格(期間)」の大半を占めている。それらは、建設事務・管理に関する「建築施工管理技士 2 級」「土木施工管理技士 2 級」「インテリアコーディネーター」、経理・会計管理に関する「建設業経理事務士」「簿記実務検定(全商 2 級)」、製造・建設管理に関する「電気工事施工管理技士 1 級」「高圧ガス製造保安責任者(機械)」、情報処理に関する「第一種情報処理技術者」「ソフトウェア開発技術者(SW)」「基本情報技術者(FE)」、語学に関する「実用英語検定準 1 級」「TOEIC 600 点～」、放送・通信に関する「電気工事士(第 1 種)」、食品調理・管理に関する「調理師」、農林水産に関する「食品衛生管理者」、エネルギー・環境に関する「毒物劇物取扱責任者」である。

各資格を取得している人の属性を図表 3-4-2 の左半分に示した(より詳しいプロフィールは図表 3-2-6 および「主要資格と職業」(第 2 分冊)を参照)。また、それぞれの資格について、入職に「有利」と答えた人が 30%以上である職業を、人数の多い順に第 3 位まで示した(図表 3-4-2 の右半分)。

入職に「有利」な資格は、専門職資格、事務関係の資格、工業関係の資格等多岐にわたっている。また、このカテゴリーには民間資格が 5 種類含まれていることが特徴的である。第 3 節でみた「費用対効果が最も高い資格」(「簡易資格(期間)」)において出現するのはほとんど国家資格であった。それに対して「費用対効果が中程度の資格」(「中堅資格(期間)」)では、いくつかの民間資格が入職の際に「有利」に働いていることが明らかになった。これは、民間資格であっても、資格取得の時間コストが少し高い資格の場合は、労働市場における有効性が高いことを示唆している。

一方、職業の側からみると、入職に「有利」な資格は、資格と関連の深い職種が多い。ま

た「簿記実務検定（全商2級）」は、事務職から販売職まで多様な職種で活用されている。

「入職に有利」と答えた人が多い資格は、「簡易資格（期間）」では20の資格のうち9つが該当するのに対して「中堅資格（期間）」では22のうち16が該当してたいへん多い。この16の資格の「有利」度の平均値は、図表3-4-2の「入職に「有利」（％）」欄から44.0％と計算できる。これを図表3-3-3から「簡易資格（期間）」について同様に算出した値37.2％と比べると6.8ポイント大きい。

図表 3-4-2 入職時の「有利」度からみた「費用対効果が中程度の資格」取得者のプロフィールと職業

「有利」度順位	資格名	各資格取得者のプロフィール				各資格を入職に「有利」と答えた人が30%以上の職業 (人数の多い順に3位まで)									
		入職に「有利」(%)	取得者数	女性比率(%)	平均年齢(標準偏差)										
1	建築施工管理 技士2級	60.6	67	3.0	42.2 (8.1)	建築塗装工 (5人 80.0%)	建築施工管理 技術者 (5人 60.0%)	サッシ工 (3人 100.0%)	大工 (3人 100.0%)	鉄骨工 (3人 100.0%)	取りこわし 作業員 (3人 66.7%)	防水工 (3人 66.7%)	造園師 (3人 33.3%)	内装工 (3人 33.3%)	
2	実用英語検定 準1級	55.7	88	65.9	37.6 (7.0)	英会話教師 (5人 80.0%)	翻訳者 (5人 60.0%)	通訳者 (4人 75.0%)							
3	電気工事士 (第1種)	50.6	165	1.2	44.9 (9.8)	電工 (22人 50.0%)	発送電装置 技術者 (9人 77.8%)	ビル施設管理 技術者 (7人 85.7%)	電気技術者 (強電) (7人 57.1%)						
4	土木施工管理 技士2級	50.0	106	8.5	41.8 (7.5)	建設機械			造園師 (6人 50.0%)						
5	インテリア コーディネーター	50.0	62	59.7	41.1 (7.5)	インテリアコー ディネーター (28人 60.7%)	カラーコー ディネーター (4人 100.0%)	インテリア デザイナー (4人 50.0%)							
6	第一種情報処理 技術者	49.6	129	8.5	42.4 (6.8)	システムエン 지니어(IT アーキテクト) (9人 55.6%)	システムエン 지니어(ITス ペシャリスト) (7人 71.4%)	システムエン 지니어(マー ケティング) (7人 57.1%)							
7	電気工事施工 管理技士1級	47.4	96	1.0	43.6 (8.6)	送電線架線 工(11人 45.5%)	電工 (10人 50.0%)	発送電装置 技術者 (9人 66.7%)							
8	建設業経理 事務士	46.8	63	55.6	39.6 (7.1)	経理事務員 (6人 83.3%)	原価計算係 (5人 60.0%)	配管工 (3人 100.0%)	会計監査係 員(3人 66.7%)						
9	TOEIC600点～	43.0	128	50.0	34.9 (7.8)	マーケティン グリサー チャー (3人 66.7%)	貿易事務員 (3人 66.7%)	商社営業部 員(3人 33.3%)	植物学者 (3人 33.3%)						
10	調理師	38.7	448	31.9	39.6 (8.8)	板前 (38人 47.4%)	給食調理人 (29人 37.9%)	コック (26人 46.2%)	中華料理 調理人 (26人 46.2%)						
11	ソフトウェア開発 技術者 (SW)	37.7	53	17.0	34.1 (5.2)	システムエン 지니어(サー クルス) (3人 100.0%)	システムエン 지니어(ソフト ウェア開発) (3人 66.7%)	プログラマー (3人 66.7%)	弁理士 (3人 66.7%)	システムエン 지니어(アプ ケーションス ペシャリスト) (3人 33.3%)	システムエン 지니어(プロジェ クトマネジメン ト) (3人 33.3%)				
12	食品衛生管理者	36.9	65	26.2	40.5 (9.9)	喫茶店店主 (5人 40.0%)	食品技術者 (3人 100.0%)	惣菜製造工 (3人 100.0%)	ホテル・旅館 支配人 (3人 66.7%)	和菓子職人 (3人 33.3%)					
13	高圧ガス製造 保安責任者 (機械)	36.5	74	0.0	41.4 (9.0)	石油精製 オペレーター (10人 30.0%)	化学製品製 造オペレー ター(3人 66.7%)	公害防止 管理者 (3人 66.7%)	発電員 (3人 66.7%)	航空機技術者 (3人 33.3%)					
14	毒物劇物取扱 責任者	34.2	115	14.8	39.8 (9.2)	花き栽培者 (6人 33.3%)	化学者 (5人 40.0%)	環境衛生 技術者 (3人 66.7%)	公害防止 管理者 (3人 66.7%)	農業技術者 (3人 66.7%)	高分子化学 技術者 (3人 33.3%)	農学研究者 (3人 33.3%)			
15	基本情報技術者 (FE)	33.6	107	15.0	33.0 (6.7)	システムエン 지니어(サー クルス) (9人 55.6%)	システムエン 지니어(ITス ペシャリスト) (6人 50.0%)	プログラマー (6人 33.3%)							
16	簿記実務検定 (全商2級)	32.3	93	69.9	36.1 (7.5)	生産現場 事務員 (2人 100.0%)	八百屋・魚 屋・肉屋店主 (2人 100.0%)	DIY店員 (2人 50.0%)	データ入力係 (2人 50.0%)	ネイル・ アーティスト (2人 50.0%)	一般事務員 (2人 50.0%)	郵便事務員 (2人 50.0%)			
「100名以上取得資格」 取得者全体		28.5	28103	30.6	38.7 (8.5)										

(注) 図表3-3-2に同じ

(3) 職務上の「有効」度からみた「費用対効果が中程度の資格」

取得にある程度時間がかかるが、職務上の有効度が高い資格を紹介する。先述の「中堅資

格（期間）」22 資格のうち、職務遂行上「非常に役立つ」と答えた人が取得者の 30%以上の資格（「費用対効果が中程度の資格」）は 3 資格（車両・船舶運転に関する「動力車操縦者（鉄道）」、製造・建設管理に関する「電気工事施工管理技士 1 級」、建設事務・管理に関する「建築施工管理技士 2 級」）である。各資格を取得している人の属性を図表 3-4-3 の左半分に示した（より詳しいプロフィールは図表 3-2-6 および「主要資格と職業」（第 2 分冊）を参照）。また、それぞれの資格について、職務遂行上「非常に役立つ」と答えた人が 30%以上である職業を、人数の多い順に第 3 位まで示した（図表 3-4-3 の右半分）。

図表 3-4-3 職務上の「有効」度からみた「費用対効果が中程度の資格」取得者のプロフィールと職業

「有効」度順位	資格名	各資格取得者のプロフィール				各資格を職務遂行上「非常に役立つ」と答えた人が30%以上の職業 (人数の多い順に3位まで)						
		職務上「非常に役立つ」(%)	取得者数 (2009年)	女性 比率(%)	平均年齢 (標準偏差)							
1	動力車操縦者 (鉄道)	71.6	95	0.0	38.0 (7.3)	電車運転士 (45人 95.6%)	鉄道運転計画・運行管理員 (17人 52.9%)	駅長 (8人 37.5%)	駅務員 (8人 25.0%)			
2	電気工事施工管理技士1級	34.7	96	1.0	43.6 (8.6)	送電線架線工 (11人 72.7%)	電工 (10人 60.0%)	電気技術者 (強電) (8人 37.5%)				
3	建築施工管理技士2級	30.3	67	3.0	42.2 (8.1)	防水工 (3人 66.7%)	サッシ工 (3人 33.3%)	取りこわし作業員 (3人 33.3%)	大工 (3人 33.3%)	鉄骨工 (3人 33.3%)	内装工 (3人 33.3%)	
「100名以上取得資格」取得者全体		26.5	28103	30.6	38.7 (8.5)							

(注)図表3-3-2に同じ

ここに挙げた 3 つの資格はいずれも国家資格である。これらのうち、「電気工事施工管理技士 1 級」「建築施工管理技士 2 級」は入職時に「有利」と重複し、「動力車操縦者（鉄道）」は入職時に「必須」と重複しており、いずれも有用性が高いことがわかる。また、この 3 つは極めて女性比率が低いことが特徴である。職業の側からみると、「職務上有効」と考える人の多い職業は、それぞれの資格と直結したものが多くことがみてとれる。

職務遂行上「非常に役立つ」と答えた人が多い資格は、「簡易資格（期間）」では 20 の資格のうち 8 つが該当するのに対して「中堅資格（期間）」では 22 のうち 3 つが該当するにすぎない。この 3 つの資格の「有効」度の平均値は、図表 3-4-3 の「職務上「非常に役立つ」(%)」欄から 45.5%と計算できる。これを図表 3-3-4 から「簡易資格（期間）」について同様に算出した値 35.3%と比べると 10.2 ポイント大きい。

5. おわりに

本章では、第一に、資格取得に要する時間が短い有効性が高いと考えられている資格を「費用対効果が最も高い資格」と定義し、どのような資格が該当するか導き出してみた。3 つの次元（入職時に「必須」・「有利」、職務遂行上「非常に役立つ」）から「費用対効果」を測定したが、いずれの次元においても車両・船舶運転に関する資格、定置機関・建設機械運転に関する資格が多く出現した。

「費用対効果が最も高い資格」を通覧すると、国家資格のうちでも有資格者のみに当該業

務の遂行権限を与えられている資格が多いことがわかる。法的な裏付けを持つ資格は、労働市場において一定の有効性を備えていることが改めて確認されたといえる。一方、民間資格では「生命保険募集人資格」「損害保険募集人資格」「MOUS ワード上級」「MOUS ワード一般」の4つが「費用対効果が最も高い資格」として現れた。これらは他の資格と異なり、最頻最終学歴が「大学文系」と高いこと、および女性比率が高いことが特徴である。すなわち、大卒女性が取得して事務職や販売職として就業する際に利用しているのである。

「難関資格（期間）」は医療・健康管理に関する資格がほとんどを占めていたように、「簡易資格（期間）」のうち「費用対効果が最も高い資格」は車両や定置機関・建設機械の運転に関わる資格が大部分を占めている。両者に共通するのは、人の生命や身体の安全の保護を意図して設定された資格であるという点である。こうした人びとにとって「かけがえのない」価値を守るための資格の費用対効果が高いことは常識的な結果ではあるが、きわめて合理性を備えていると思われる。

第二に、費用対効果が「簡易資格（期間）」ほど高くはないが有効性が高い資格を「費用対効果が中程度の資格」と定義し、どのような資格が該当するか導き出してみた。これらは、やや時間をかけて教育・訓練を受けることによって得た資格（「中堅資格（期間）」）の中から、一定の基準で抽出した資格群である。これらの資格の特徴は、(1)運転に関する資格だけでなく、現場主任技術者の資格、危険や衛生の管理者資格、専門職資格など多岐にわたっていること、(2)女性の比率が高いものがいくつかあること、(3)最終学歴が高いものがいくつかあること、が挙げられる。

第三に、「費用対効果が最も高い資格」（「簡易資格（期間）」）と「費用対効果が中程度の資格」（「中堅資格（期間）」）との比較である。「入職時に必須」「職務遂行上非常に役立つ」の二つの基準においては前者の方が後者よりも抽出された資格数が多い。「入職時に有利」においては、「中堅資格（期間）」の方が「簡易資格（期間）」よりも抽出された資格数が多い。また、有効性の度合いを入職時の「必須度」・「有利度」、職務上の「有効度」の平均値を比較して検討したが、数値上は「簡易資格（期間）」よりも「中堅資格（期間）」に大きな値が算出された。この結果を素朴に受け取るとすれば、費用対効果という観点からすると、一定のコストをかけて取得する資格の方が最もコストが低い資格よりも有用性が高いということになる。

最後に、先行研究の知見と突き合わせてみよう。上西（1999）は、企業から見た職業資格の役割を検討している。そこで分析対象となっている具体的な資格の中には本章で扱ったのと同じ資格がいくつか含まれている。たとえば「建築施工管理技士」「電気工事施工管理技士」「建設業経理事務士」は、資格取得後に祝い金または資格手当などの褒賞を与える企業が多い資格である。また、「電気工事士」「玉掛技能講習」「床上操作式クレーン運転技能講習」「フォークリフト運転技能講習」「有機溶剤作業主任者」は法規対応のため取得が指示・奨励される割合が高く、「建築施工管理技士」「土木施工管理技士」は法規対応だけでなく対外的なア

ピールも意図して取得が指示・奨励されている。上西（1999）の知見と本章での知見をあわせると、ここで挙げられたようないくつかの土木・建設関連の資格や危険防止のための資格は、企業から見ても個人から見ても有用性の高い資格と考えることができる。

本章での分析を端的にまとめると次のようになる。国家資格のうち、有資格者にのみ当該業務を遂行する権限が与えられている資格や、事業所に一定の基準に従って有資格者を置かなければならない資格は、その性格上費用対効果が高い資格として多く出現した。ただし、いくつかの民間資格は一定のコストをかけて取得することによって有効性をもたらすことが明らかになった。もとより、資格取得のコストは取得にかかる時間に限定されるものではない。とはいえ、多種多様な資格を共通の基準で比較するのは非常に困難を伴うため、本章の分析では時間コストを手がかりに資格の効果を測定しようとした。この分析結果を手がかりとしてさらに追究することが今後の課題である。

参考文献

- 阿形健司 1998 日本の職業資格—その現状と効果— 苅谷剛彦編 教育と職業—構造と意識の分析 1995年SSM調査シリーズ11(科学研究費補助金研究成果報告書) 57-83
1995年SSM調査研究会
- 上西充子 1999 企業から見た資格・検定の分類と役割 日本労働研究機構編 職業能力評価および資格の役割に関する調査報告書(調査研究報告書 No.121) 152-188 日本労働研究機構